

福島第一原子力発電所の廃炉に向けた 中長期ロードマップの改訂について

令和2年2月19日
廃炉・汚染水対策チーム事務局

中長期ロードマップ改訂案のポイント

- 周辺地域で住民帰還と復興が徐々に進む中、「復興と廃炉の両立」を大原則として打ち出し。
(リスクの早期低減、安全確保を最優先に進める。)
 - 地域との共生。当面（10年程度）の工程を精査し、「廃炉作業全体の最適化」。
- 廃止措置終了までの期間「30～40年後」は堅持。

①燃料デブリの取り出し



燃料デブリを取り出す初号機と、その取り出し方法を確定。

具体的には、2号機で、気中・横から試験的取り出しに着手(2021年内)。
その後、段階的に取り出し規模を拡大。

②プール内燃料の取り出し



1・2号機で、工法を変更しダスト飛散を抑制。

取り出し開始は、1号機で4～5年、2号機で1～3年後ろ倒し。
2031年内までに、1～6号機全てで取り出し完了を目指す。

③汚染水対策

- これまでの対策により、汚染水発生量が大幅に抑制。
(540m³/日(2014年5月) → 170m³/日(2018年度))



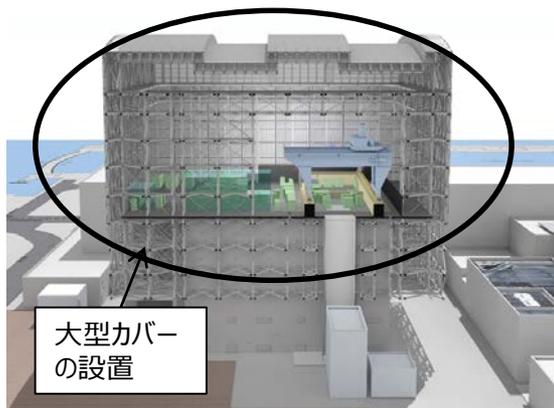
1日あたりの汚染水発生量について、2020年内に150m³まで低減させる現行目標を堅持。
加えて、2025年内に100m³まで低減させる新たな目標を設定。

※なお、ALPS処理水の取扱いについては、引き続き総合的な検討を進めていく。

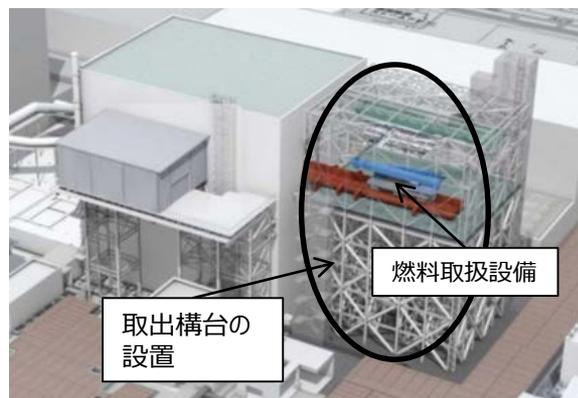
(参考) プール内燃料取り出し及び燃料デブリ取り出しのポイント

プール内燃料取り出し (ダスト飛散を抑制する工法の採用)

1号機

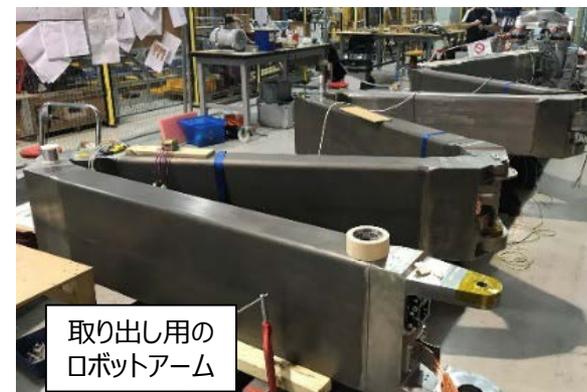


2号機



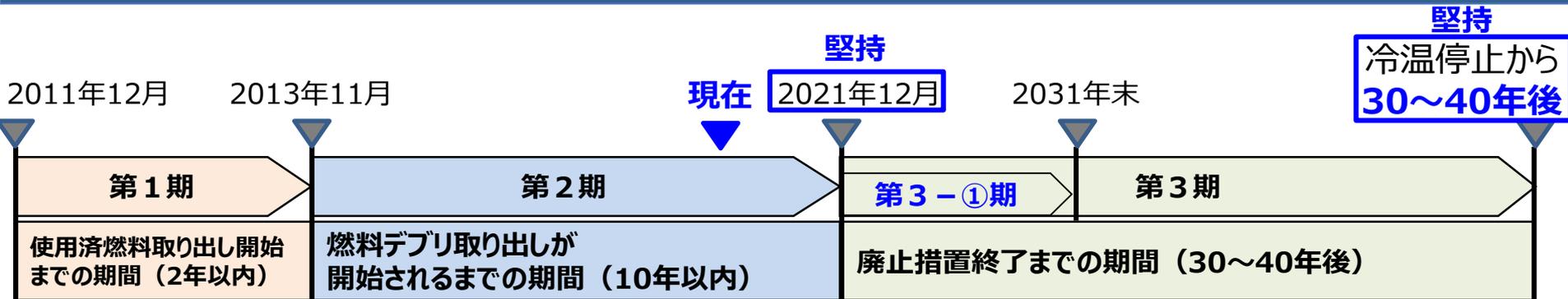
- ダスト飛散の抑制など、安全確保を最優先に進めるべく、工法及び取り出し開始時期を見直す。
- 5・6号機でも燃料の取り出しを進め、2031年内までに全号機での取り出し完了を目指す。

燃料デブリ取り出し (2号機 (初号機) における取り出し方法の確定)



- 燃料デブリを取り出すロボットアームを開発中。燃料デブリ取り出しの方法を具体化。
- 2021年から慎重に開始し、段階的に規模を拡大。

改訂中長期ロードマップの目標工程



主な目標工程

2017年9月改訂版

2019年12月改訂版

汚染水対策	汚染水発生量を150m ³ /日程度に抑制	更なる発生量の低減	2020年内	2020年内
	<u>汚染水発生量を100m³/日以下に抑制</u>		—	<u>2025年内</u> 新設
滞留水処理	建屋内滞留水処理完了※		2020年内	2020年内(※)
	<u>原子炉建屋滞留水を2020年末の半分程度に低減</u>		—	<u>2022年度～2024年度</u> 新設
燃料取り出し	<u>1～6号機燃料取り出しの完了</u>		—	<u>2031年内</u> 新設
	<u>1号機大型カバーの設置完了</u>		—	<u>2023年度頃</u> 新設
	1号機燃料取り出しの開始	安全確保・飛散防止対策のため工法変更	2023年度目処	<u>2027年度～2028年度</u> 見直し
	2号機燃料取り出しの開始		2023年度目処	<u>2024年度～2026年度</u> 見直し
燃料デブリ取り出し	初号機の燃料デブリ取り出しの開始 <u>(2号機から着手。段階的に取り出し規模を拡大)</u>		2021年内	2021年内
廃棄物対策	処理・処分の方策とその安全性に関する技術的な見通し		2021年度頃	2021年度頃
	<u>ガレキ等の屋外一時保管解消</u>		—	<u>2028年度内</u> 新設

※1～3号機原子炉建屋、プロセス主建屋、高温焼却建屋を除く。

地域との共生・コミュニケーションの強化に関する具体的な取組

- 長期にわたる廃炉作業を進めていくにあたっては、「復興と廃炉の両立」の大原則の下、より一層のリスク低減や安全確保を最優先としつつ、「地域との共生を進め、コミュニケーションを強化」していくことが必要。
- こうした考えに基づき、各自治体の皆様にも御協力いただき、「地元の方向けの視察・座談会」や、「イベント等での廃炉に関する説明ブースの出展」など、地域の方に向けた取組を強化。
- 来年度も更なる取組の拡充を図っており、引き続き御協力をお願いしたい。

視察・座談会

- 東京電力、自治体の皆様と連携し、発電所構内を視察して現状を直接御覧いただくとともに、座談会を通じて参加者の方々の疑問にお答えする取組を組み合わせ実施。
- 御参加いただいた方からは、「実際に現場を見ることができ参考になった」「廃炉に関連する地域活性化の取組について考えてほしい」「多くの人にこの取組に参加してほしい」等の御意見を頂いた。

<実績（【】は参加者数）>

2019年

6月15日 浪江町民向け視察・座談会【20名】

9月28日 浪江町民向け視察・座談会【13名】

10月19日 エネ庁・東電主催 視察・座談会【15名】

12月7日 エネ庁・東電主催 視察・座談会【29名】

12月14日 浪江町民向け視察・座談会【8名】

2020年

2月15日 エネ庁・東電主催 視察・座談会【58名】



イベント等での廃炉の説明ブースの設置

- 東京電力、福島県庁、自治体の皆様と連携し、地域のイベント等において廃炉に関する説明を行うブースを設置。福島第一原発のジオラマ模型なども活用しながら、皆様の廃炉に関する疑問にお答えすると共に廃炉に対する意見を伺った。
- 福島県内の方々を中心に、イベント等への参加のためにお越しになった福島県外の方々にも御来訪いただいた。
- 御来訪いただいた方々からは、「廃炉をわかりやすく理解できた」「顔を見ながら会話をすることは大事」「こういう機会をもっと増やしていくべき」等の御意見を頂戴した。

<実績（【】は訪問者数）>

2019年

- 5月11,12日 浪江町・まるしえの日【約65名】
- 8月10,11日 浪江町・夏祭り【約300名】
- 10月 5日 ふたばワールド@Jヴィレッジ【約400名】
- 10月26日 標葉祭り（浪江町、双葉町、大熊町、葛尾村）
【約85名】
- 11月23,24日 浪江町・十日市祭り【約400名】
- 12月 21日 ふくしま大交流フェスタ@東京【約380名】

2020年

- 2月 8,9日 浪江町・まるしえの日

